

消費者行動 (1) 消費者余剰最大化仮説 *

消費者行動

消費者行動 = 最適な消費 (品目・数量) を決定する

「最適」 = (所与の価格のもと) 消費者余剰最大化 (消費者余剰最大化仮説)

c f . 効用最大化仮説 (参考文献) 矢野 誠 (2001) 『ミクロ経済学の基礎』, 岩波書店

消費者余剰 Consumer Surplus, CS

- ・消費者余剰 : 商品購入により生じる消費者の「もうけ」のようなもの

$$\text{消費者余剰} = \text{総支払用意} - \text{実支払}$$

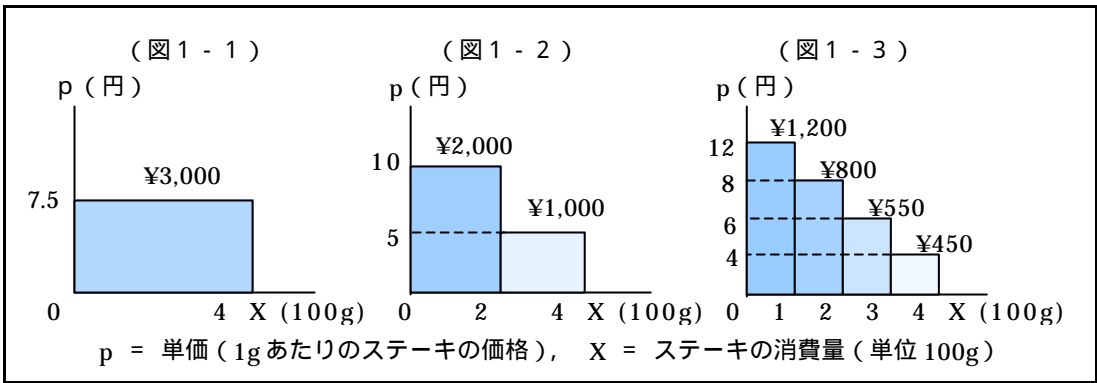
c f . 企業の利益 (もうけ) = 販売総額 - 総費用

- ・支払用意 (総支払用意 Total Willingness to pay, TW)

支払用意 = ある消費量に対して支払っても良いと考える最高額
 満足度が高いほど, 支払用意も高くなる (予算制約にも依存する)

例) A さんにとってのステーキに対する支払用意

A さん - ステーキ 400g に対する総支払用意 = 3000 円 < 図 1 - 1 >
 ステーキ 400g のうち, 最初に消費する (食べる) 200g と, あとから消費する 200g では, 最初に消費する 200g のステーキの方が満足度が高い (と考えられる). < 図 1 - 2 >
 同様に, ステーキ 200g のうち, はじめに消費する 100g と, あとから消費する 100g では, 最初に消費する 100g のステーキの方が満足度が高い (と考えられる). < 図 1 - 3 >
 同様なことを繰り返していくと, 最終的に, グラフの頂点を結んだものは右下がりの曲線として (近似的に) 記述できる. (「限界支払用意曲線」) < 図 2 - 1 >



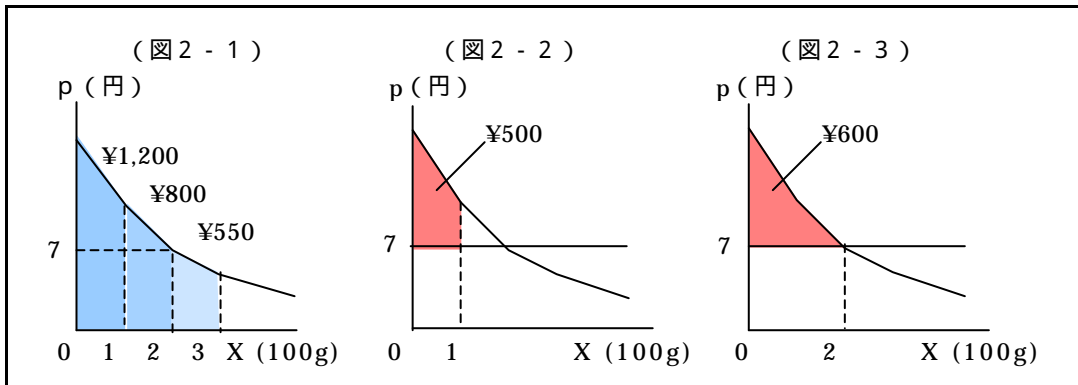
・実支払 = 実際に支払った金額(代金), 実支払 = 単価 × 数量

例) 消費者余剰の計算

ステーキ単価 7 円 (1 グラムあたり 7 円 = 100g あたり 700 円) の場合

(1) ステーキ 100g の消費 消費者余剰 = 1200 - 700 = 500 (円) <図 2 - 2 >

(2) ステーキ 200g の消費 消費者余剰 = 2000 - 1400 = 600 (円) <図 2 - 3 >



消費者余剰を最大にする消費量は, 価格線 ($p=7$) が限界支払用意曲線と交わるときの消費量に等しい。(需要曲線と同じ性質)

(個人の) 限界支払用意曲線 = 個人の需要曲線 cf. 市場の需要曲線

【問題 1】 次の問いを「消費者余剰最大化仮説」にもとづいて考えよ。

消費者 A のステーキに対する需要関数が $x = p + 10$ (p : 単価, x : 需要量(単位 100g)) であるとする (需要曲線は下図の通り)。このとき, 以下の問い ~ に答えよ。

単価 8 円のと看, および, 単価 6 円のと看の (消費者 A の) 需要量をそれぞれ求めよ。

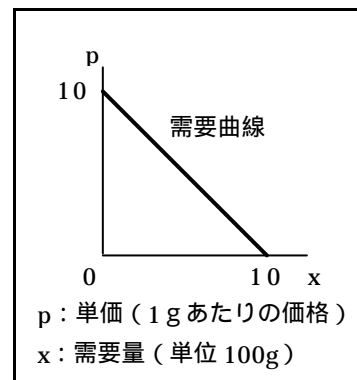
単価 8 円のと看, および, 単価 6 円のと看の (消費者 A の) 消費者余剰をそれぞれ求めよ。

の結果 (消費者余剰の大小関係) は, 消費者の感覚と一致するだろうか?

(応用)

単価 8 円のと看, 最適消費を選択したら, お店の人が「おまけ」で 100g 余分にステーキをつけてくれた (おまけの分の支払はしなくてよい)。このときの消費者余剰を計算せよ。

お店は, 単価 8 円のと看とは別に, 「300g ステーキ, 2370 円」(単価 7.9 円) というメニューをはじめた。このメニューは, 消費者 A にとって, (単価 8 円のと看とくらべて) お得か否か? 消費者余剰の大小比較をすることで説明せよ。



以上